

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/第①ユニット)

事業所番号	2770801450		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	グループホーム アミライフ・東住吉		
所在地	大阪府大阪市東住吉区住道矢田6丁目2番24号		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所されている方の認知症状を少しでも緩和し「その人らしい生活をして頂くこと」を目標として日々職員のスキルアップに心がけております。地域との触れ合いを大切に考え地域に根付いた施設を目指しています。新型コロナウイルスの感染予防に力を入れ、利用者様や家族様にも協力して頂き感染者は出ていません。電話での対応やガラス越しでの面会等をし利用者様のストレスが溜まらないように心がけていきました。少しでも季節を感じて頂けるように感染予防に努めながら行事も行い夏祭りや敬老会、、クリスマス会を開催致しました。医療面でも母体が医療法人ですので緊急時の対応や往診にて連携も取れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は大阪市内でグループホームを8事業所運営している医療法人「アミコ(株)」で、当事業所は平成17年5月1日に地域に根付いた施設をめざして開設された。医師や看護師との24時間連携や病院への受け入れ体制が整っており、看取り支援も家族の意向に沿いながら取り組んでいる。近隣に系列の施設があるので何かある時はお互い協力できる環境にある。また企業主導型保育園もあり、子供たちとの交流は利用者にとって笑顔となり癒されている。季節を感じる企画も豊富で、春のお花見、夏祭り、敬老会、クリスマス会など、様々な企画に一丸となって取り組んでいる。管理者、職員は「その人らしい生活」が送れるようなそんなグループホームを目標として、日々職員のスキルアップも研修を重ねて頑張っている職員の姿勢がうかがわれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・信愛・憩い」を法人理念とし、「人と人のお付き合い」を事業所の理念として職員間で共有できるようなフロアに掲げています。	事業所独自の理念「人と人のお付き合い」を掲げて各ユニットのリビングに掲示している。週に一回は申し送り時に唱和したり、会議で振り返り話しあって意識づけている。理念は家族、職員、地域の方など関わる全ての方との付き合いを大切に日々の支援に取り組む事を意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年もコロナの影響で地域との交流も出来ず、イベントも全て中止になり参加することが出来ませんでした。	町内会に入会している。チラシなどで情報やイベントを知り、参加できる企画には積極的に参加している。感染症対策を徹底して近隣大学の実習生受け入れはしているが、地域の小、中、高生の体験学習の受け入れはしたことがないので、話を頂ければ法人と相談して受け入れてみたいと考えている。現在は地域との交流は自粛中であり交流は難しい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で地域との交流が難しく地域貢献は出来ませんでした。過去には施設内で地域の方を招待して食事会を開催し認知症の理解をして頂いたり、地域清掃にも利用者様と参加していました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で会議は中止しています。2か月に一回活動報告などを書面にてお渡しし意見交換しています。	会議の参加者は町会長、同女性部長、地権者、地域包括支援センター職員、スタッフで実施している。コロナ禍で書面開催である中で、事業所で抱えている問題を明記し、それに回答して頂くように、関係者とは書面にて連絡を取りあっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響もあり勉強会などに参加は出来ませんが分からないことがあれば直接区役所の介護保険課に問い合わせています。	介護保険課や生活保護課へは介護保険のことや生活保護者について申請、報告、相談をしている。以前は行政から情報やグループホーム連絡会や研修などの案内はあったが、現在はコロナ禍のため参加を自粛している。地域包括支援センターには出向いた時にいろいろ相談、報告をして良好な協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束委員会を作り、2か月に1回の研修を行い施設の会議などで事例検討を行い学んでいます。各階の玄関は状況を見て開錠している時間もありましたが帰宅願望が強く出ている利用者様がいて施錠している時もあります。	身体拘束適正化の為の指針を作成し、3ヶ月毎の委員会開催と年2回、定期的に職員研修(身体拘束、虐待防止等)は行われている。不適切な対応をしていることがあれば管理者から注意すると共にどのようにすればいいのかを職員間で考え注意しあえるようにしている。議事録や報告書も適正に保存されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も施設内研修にて学び、職員が周知できるようにしています。入浴中に体に痣がないか確認し利用者様からの声にも耳を傾け虐待が見過ごされることのないように職員間で声掛けをしたりしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度やあんしんサポートを利用されている方がおられ、密に連携を取り利用者様の権利擁護に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時には御家族様に書類を提示しながら説明を行っており、特に重要な個所については時間をかけてご理解頂けるようにしています。後日不明な点がありましてもその都度説明しご理解いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で行事への参加、面会を自粛していることもあり月々の様子をお手紙で郵送したり定期的な電話にて報告しています。	現在、面会自粛中のため、利用者、家族の要望でガラス越しの面会や電話対応をするなど、即要望に応じている。年2回、法人の会報(アミコ通信)と毎月、利用者の様子を書いた便り(アミライフ・東住吉)を郵送したり、電話で報告するなどして、家族の意向や要望を表せる機会を可能な限り設けたいと取り組んでいる。法人にはリモート対応もできるように現在要請中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員が声をかけられる環境作りをし、意見や提案などを聞けるようにしています。また、毎月の全体会議を開催しており事前に職員から議題を募集し話し合いや実践を踏まえて再検討などしています。個別でのヒアリングも行っています。	毎月の全体会議で、事前に職員から意見、要望、提案を収集して、みんなで話し合い調整し運営に反映している。職員からは古くなった洗濯機、掃除機、冷蔵庫等の物品購入の要望や利用者個々の状態変化をみて、ケアの対応変更の提案など活発な意見がよく出ている。職員との個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションの中から職員の思いや目標などを聞き出したりしています。勤務態度や貢献度に応じて評価し給与水準に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実習生や新職員に指導員を付け指導する立場になり自らも介護技術の見直し、向上に繋げるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で交流会が中止されていたため交流はありませんでした。例年であれば定期的に他事業所との施設見学や意見交換会があります。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と面談を行い何気ない会話の中から困っている事や不安なことを傾聴しアセスメントを作成しどのようなサービスが必要か検討して信頼関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	離れて暮らすことの不安や大切な家族がどのような生活を送って欲しいかなどの要望を受け止め安心して頂けるような関係性を築いていけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人様や家族様の状況を的確に見極め今どうすることが最善であるかを考えて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今出来ている事や、機能の維持・向上に努め刺激のある生活を送って頂けるように援助し、できることはしていただきお手伝いなども積極的にして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にしかできないことや絆を大切にしながら家族様にも現状を密に報告し、一緒に考え悩みよりよい解決策を模索しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出も自粛にさせて頂いていますので、電話やお手紙にて関係が途切れないようにしています。落ち着けば家族の集まりや、法事お墓参りなど関係性が途切れないようにできる限り支援していきたいです。	以前は家族の集いなどがある時は、参加者も多く、近隣に住んでいる友人、知人の訪問もあった。コロナ禍で訪問も制限している。外出ができない分、テレビ鑑賞は歌番組など利用者が好きな番組を見て楽しんでいる。利用者、家族から要望があれば電話対応の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので全員が関係性良好とは言えませんが、仲の良い利用者様同士でお話をされたり職員が間に入って利用者様同士がコミュニケーションできるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族様にも現在の状況や必要に応じて助言や他施設の紹介なども行っています。入院された方に対しても今はコロナの影響で出来ませんが可能な限りお見舞いに行くなど今までの関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の希望や困っている事などを職員間でも収集し、担当者会議などで話し合ったりしています。また、家族様や関係者にも意向を聞いたり情報収集を行い、なるべく本人本位で動けるよう検討しています。	アセスメントシート(生活歴など)を基に日常の会話から利用者の思いや意向を汲み取る努力をしている。出来るだけ1対1でゆっくりと過ごせる時間(入浴、余暇)を作ったり、利用者間での会話からも情報収集を行うなど、本人の希望、意向の把握に努めている。把握した内容は申し送りノート、生活記録などに記入して共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に本人や家族様、担当ケアマネ等に現在までの生活歴や趣味趣向などの情報を収集し把握に努めています。生活環境も考えベッドではなく布団の対応も行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を詳細に生活記録に記入し、期間帯の把握や小さな変化も見逃さないようにしています。職員が気付いたことは申し送りなどで報告してもらい全員で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様の意向、主治医の意見をもとに職員間で担当者会議を開きケアプランを作成しています。状態の変化によって再アセスメントやプランの変更も行い多職種と連携してプランを作成しています。	本人、家族の意向(意思疎通が厳しい利用者に関しては家族に聞いている)と職員からの情報を基に会議を開き意見交換をしている。必要に応じて医師や看護師などの意見も聞いてケアプランは作成している。計画作成担当者がプランの長期目標6か月、短期目標3か月、モニタリングはその都度の変化で現状に即したプランを作成している。家族には郵送にて確認を取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様ごとに個別記録を作成し、情報の共有や気付いたことなど観察し記入するようにし1か月に1回更新しています。特記事項などがあれば申し送りノートに記入し情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で全てとはいきませんが、利用者様や家族様の希望により外出や病院の受診などその時々生まれるニーズに対して出来る限りの対応はしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で今年はありませんでしたが、ふれあい喫茶や近隣の大学の文化祭など地域資源を活用し施設内だけではなく外に出て社会との関わりに努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に母体病院より往診にて医療連携が取れており医師と看護師が来てくれます。必ず決まった往診医ではなく入居前から馴染の診療所より往診も過去には来ていました。	利用者が今までのかかりつけ医への受診には眼科、形成外科、整形外科、麻酔科など基本家族同行で受診している。協力医療機関からの往診は内科(月1回)、歯科(月4回)で歯科は希望者のみが受診している。看護師が週1回訪問があり(24時間オンコールです)、利用者の健康状態の管理や爪切り看取りの研修等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護で利用者様の健康状態を把握しています。医師との連携を図り職員からの疑問や注意点など指摘して対応もして下さります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナの影響で今年は電話にての対応でしたが定期的に面会へ行き、利用者様の状態を把握し家族の思いや病院側や主治医とも相談し早期退院や情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族様に密に説明し、重度化した場合の選択肢や事業所で出来ることなどをご理解されるまで説明しています。利用者様の段階に応じて家族を交えて主治医と相談の場を設けたり希望等を確認しています。看取りも対応しています。	契約時に「体調が重度化した場合の対応に係る指針」を示して説明を行い、さらに重度化のガイドラインを説明して同意を得ている。終末期に入ったとの医師の判断のもとにカンファレンスを行い、さらに具体的に3つの選択肢を示して家族に説明を行い再度同意を得ている。職員研修は看護師が行っている。今期1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡手順を職員が見えるところに掲示し速やかに対応できるようにしています。応急手当やAEDの研修など行い看護師からも指導をして頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っています。避難経路や避難先などを把握し災害時に対応できるようにしています。非常食や水も常備しています。水害時の訓練も同様に行っています。地域との協力体制はなかなか築けていません。	年に2回の消防訓練は日中・夜間想定に基づき利用者も参加して行い水害時の訓練も行っている。水・食料、コンロが1階の倉庫に備蓄されている。近隣の職員は4名いるが住民の協力体制の構築が無く、今後近隣住民が参加の運営推進会議の中で声掛けを行う予定がある。	前回と同じようにならないように地震を想定した自主訓練を行う予定があり、是非、実施されるよう期待する。消防署立ち合いの時に地域の運営推進会議出席者に声掛けして利用者の見守りの立ち合いをお願いする予定があり、この点について実現されるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、言葉遣いや上から目線の介護にならないように職員同士で注意しあっています。なじみの関係が築けてくるとその方に合った声掛けをしています。同性介助も可能な限り対応しています。	法人の接遇マナー、プライバシーポリシー、尊厳の研修が行われ職員が参加している。利用者への言葉遣いは”です、ます”口調を基本とし、羞恥心への配慮には排泄介助の声かけを耳元でしたり、希望があれば入浴介助は同性介助ですることもある。時には強い言葉の職員があり、気付いた時点で職員や管理者が注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見や要望を傾聴し、急がずに自己決定できるように選択肢を限定したり工夫をして利用者本位の支援が行えるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者優先を心がけています。強制ではなく本人の希望に沿った支援を提供させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や身につける物はご自分で選んで頂き、外出の際はお化粧をされる方もいました。2か月に1回訪問理美容にて散髪も行い身だしなみには注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響で今は別々での食事体勢を取っていますが食事の時間は職員も一緒に同じものを同じ時間に食べコミュニケーションや食事量の把握も行っていました。準備や後片付けも手伝ってくれています。年間行事で何度か外食もありますが、今年はコロナで外食は出来ていません。	朝食は施設で考え、昼食、夕食は業者の献立付きのメニューにそった食材が届き、職員が交代で調理をしている。季節のイベント時には、通常メニューに代えて行事担当がイベントに合わせた豪華なうなぎ丼、牛丼、お寿司等で楽しみ利用者は食材の皮むき、テーブルふき等で参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や形態など職員は周知しています。1日の水分量の合計もチェックし把握しています。健康状態に合わせて一口サイズやミキサー食などの食事も提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方に応じて見守りや介助を行っています。定期的に義歯の消毒も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の時間帯や感覚を把握し出来る限りトイレで排泄が行えるようにしています。利用者様の自尊心を傷つけないように失敗をなるべく防ぐようにしています。失禁＝オムツではなくどうすれば失禁しないかを職員で検討しています。	それぞれの利用者の排泄パターン、時間帯を把握して声掛けを行い、車椅子対応の利用者でも二人介助にてトイレ排泄行う場合もあり、リハビリパンツから布パンツに移行した利用者がある。布パンツにて自立の利用者が5名いる。夜間は2時間ごとの見回りをし、温度調節や照明加減などきめ細やかな対策があり、安眠重視の見守り対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや排便のカウントを行っており、乳製品を勧めたり体操などで腸の働きを促しています。また、ホットパックなども使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入って頂くようにしていますが、曜日や時間帯はこちらで決めているのが現状です。利用者様の気分や体調に応じて変更はしています。入浴を少しでも楽しんで頂けるように入浴剤を使用したり冬にはゆず風呂も行っています。	入浴は週2回の午後から行い。嫌がる利用者には、誘導が上手な職員に対応してもらったり、時間を変更したり、日を変えたりなどの工夫している。股げなくなった利用者には、二人介助にて抱えて湯船に入っている。季節によりゆず湯を行い日常的には入浴剤を使用して楽しむ工夫が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠される環境を作るようにしています。昼夜逆転にならないように昼間はなるべく刺激のある生活を送って頂き、夜間不眠の方も不安な気持ちを取り除くように傾聴しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録に各利用者様のお薬情報を入れており、いつでも閲覧できるようにしています。服薬時には必ずダブルチェックを行い飲み込まれるまで確認しています。薬に関しては薬局に相談や副作用など確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書を楽しまれる方や歌番組が好きな方、ぬり絵が得意な方は作品を掲示して皆さんに見て頂いたりしています。好きな事楽しい事を日々の会話から探るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で今年はありませんでしたが、日常的に散歩や外に出て気分転換をして頂いたり、家族様と外出や食事など出かける機会は多く作っていました。	コロナ禍の中法人の方針で外出は無く、イベント委員の様々な企画の基に、利用者は1階の玄関までの往復、各ユニット間の行き来、カラオケ、ボーリング、釣りゲーム等ストレスの発散を行い職員共々が楽しんでいる。蔓延防止対策が解除されれば近隣散歩、お花の水やり等に等外出を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご自分でできる方には家族様にご理解して頂き所持されている方もいます。近隣のスーパーに買い物に行かれたりもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にも協力して頂き、本人が電話をしたいと要望があれば繋いでいます。声を聴くことで安心される方もおられます。年賀状などお手紙のやり取りの支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはくつろいで頂けるようにソファやチェアを用意しています。また、季節に合った飾り付けなども行っています。歩行の邪魔にならないようあまり物を置かないようにし、読書が好きな方には文庫本や雑誌なども置いています。室温調節して湿度も加湿器で調整しています。	共用のスペースには3人掛けのソファが3脚置かれ仲良しの利用者がおしゃべりを楽しんでいる。壁面では正月には凧を掲げたり、ひな人形、五月人形、クリスマスツリーなど季節毎に壁飾りを変えている。各フロアには空気清浄加湿器が2台、空気清浄器は1台設置され掃除は夜勤職員が行い清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の中で1日を過ごす自分の居場所があり、落ち着かれる環境作りをしています。他の階の利用者様との交流もあり気の合った方同士会話を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用しておられた馴染の家具や写真などを用いて住み慣れたお部屋に近い状態で過ごしていただいています。使い慣れた布団や枕、仏壇なども持ってこられています。	居室にはベッド、防災カーテン、洗面台、クローゼットが備え付けられ利用者はタンス、衣類、仏壇、テレビなど馴染のある物を持ち込み、扇風機など危険が伴うものは家族と相談して設置し、異食行為などが見られる場合は預かったりしている。清掃などは職員がメインで一緒にできる利用者と共に、シーツ交換後にも利用者の好みに沿ったしつらえを崩さない等配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりが設置されており歩行訓練をされる方もいます。トイレの場所は分かりやすく表示しており車椅子で自走される方もおられますのでスペースを確保するようにしています。		